

オフィシャルツアー「女木島名画座上映会」8/19(土)のお知らせ

瀬戸内国際芸術祭実行委員会(会長:池田豊人 香川県知事)では、「ART SETOUCHI」として、一年を通して地域活動への参加やアート作品の公開等に継続して取り組んでいます。

瀬戸内国際芸術祭2016で女木島に開館した「ISLAND THEATRE MEGI『女木島名画座』」は、ニューヨークに最後まで残った42番街の古い映画館をイメージした作品です。小さいながらも楽しく映画を見られる作品空間の中で、定期的上映会ツアーを開催しています。

今回は、昨年の瀬戸内国際芸術祭2022で小豆島と豊島で上演された「ままごと」の演劇公演のドキュメンタリー映像を、芸術祭総合ディレクター・北川フラム氏の案内で上映します。上映後には映画監督の清原惟、ままごとの制作・プロデューサーである宮永琢生を迎え、案内人を務める北川フラム氏とのトークや、島の漁師さんから仕入れたお魚が楽しめる食事、貴重な夜間の作品鑑賞など盛りだくさんのツアーとなっています。

【女木島名画座上映会 概要】

日時 | 2023年8月19日(土) 16:00~20:50
会場 | ISLAND THEATRE MEGI「女木島名画座」
参加費 | 11,800円(税込み)
※乗船料・アート作品鑑賞料・ガイド料・
食事料金含む

定員 | 30名

予約方法 | コトバスツアーウェブサイト

<https://www.kotobus-tour.jp/tour/bus/KTS299.html>

スケジュール | ▶16:00 高松港発 定期船移動
(予定) ▶16:30 瀬戸内国際芸術祭2022ドキュメンタリー『7日間のままごと』上映
▶18:50 北川フラム×清原監督×宮永琢生トーク
▶19:20 食事(umiyado 鬼旬)
▶20:00 「女根/めこん」ナイトプログラム、「不在の存在」鑑賞
▶20:30 女木島発 チャーター船移動(20:50高松港到着)

案内人 | 瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター 北川フラム

主催 | 瀬戸内国際芸術祭実行委員会

【上映作品】

瀬戸内国際芸術祭2022ドキュメンタリー『7日間のままごと』ディレクターズカット版
2022年秋、「ままごと」は、小豆島で『あゆみ(短編)』、豊島で『反復かつ連続』の公演を行った。



依田洋一朗「ISLAND THE THEATRE MEGI『女木島名画座』」

Photo:Shintaro Miyawaki

本映像はその公演前後の7日間の記録ドキュメンタリーのディレクターズカット版。

瀬戸内国際芸術祭 2013 より、小豆島での演劇活動を継続的に行ってきた劇団「ままごと」。これまで坂手エリアを中心に、島の歴史や記憶から創作した『おさんぽ演劇』や島民と共につくり上げた肝試し演劇『小豆島きもだめスイッチ』、珈琲や軽食のほかに演劇やダンスパフォーマンスも販売する喫茶店『喫茶ままごと』など、様々な形態の演劇作品を創作・上演してきた。

【参加アーティスト】

● 清原惟（きよはら・ゆい）

1992年東京生まれ。映画監督・映像作家。

監督作『わたしたちの家』が、ぴあフィルムフェスティバル 2017 でグランプリを受賞。同作は渋谷ユーロスペースをはじめとする全国各地と、第68回ベルリン国際映画祭など10カ国以上の映画祭で上映された。最新作の『すべての夜を思いだす』は第73回ベルリン国際映画祭に出品、北京国際映画祭 Forward Future 部門で審査員特別賞を受賞し、現在国内での公開待機中。2022年に5th floor で展覧会「ユートピアのテーブル」を企画、映画にとどまらずリサーチを元にした映像作品の制作も行う。

● 宮永琢生（みやなが・たくお）

1981年東京生まれ。劇団「ままごと」制作・プロデューサー。「喫茶ままごと」マスター（休業中）。2009年に劇作家・演出家の柴幸男と共に劇団「ままごと」を起ち上げる。以降、「ままごと」作品の制作・プロデュースを中心に、近年は《場所・人・時間》の関係性に軸を置いた演劇活動を行っている。瀬戸芸をきっかけに2019年より小豆島（香川）に移住し、現在は東京との2拠点生活。島の喫茶店（喫茶ままごと）の次は、島のタクシー演劇（島内移動型演劇）をつくりたい。

【食事】

瀬戸内の魚料理を堪能いただける民宿「umiyado 鬼旬」の夕食。

和食の料理人として大阪で実績を積んだ店主が、故郷女木島に戻って開業した宿で、島の漁師さんから直接仕入れたお魚や、島で育てた野菜を使ったお料理を提供いたします。

【備考】

船を使ったツアーのため、荒天時など船会社より危険という判断があった場合は、ツアーを中止する場合があります。詳細はコトバスツアーウェブサイトをご確認ください。



Umiyado 鬼旬の食事（一例）



依田洋一朗「ISLAND THE THEATRE MEGI『女木島名画座』」